

『春風に誘われて』 寸評

- ・ ていねいに構成された見通しのよさがきいてて快い
- ・ Fl. 2本のあつかいが変化に富んでおりおもしろい
- ・ 伴奏に徹する弦楽器との対照も曲の性格をハッキリさせる
- ・ 必要があつてこの長さになったと納得できる
- ・ まるで浮き足立っているかのやうなタイトル

完成度をさらに上げるために

- ・ グループ括弧は全楽器を通して
その上でFl.2本をさらにまとめてもよい→



- ・ スラーとアーティキュレーションはついているが
ダイナミクを欠いているのがもったいない
- ・ m.18 Fl.II ししゅう音として半音でいったりきたり



- ・ m.41-42 チェロ 分散和音でメロディに反行させる



- ・ m.26-31 チェロ 1拍目をオクターヴ下げて強調すると効果が高い



- ・ m.39-40 Fl.II



←よりダイナミックに

- ・ m.26-29 Fl.I



トリルがあっても

- ・ m.5 ウラ拍からの発音はシンコペーションとしてなんらかのアクセントが想定される

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

とてもよく研究してあります。

持摩勉